



木工ワークショップ



墨アートワークショップ

「地域おこし協力隊」は、都市部から地方へ移住し、地域に根ざした活動を通じて、まちの活性化を担う制度です。寄居町では、町の魅力発信や移住・創業支援など、それぞれの分野で協力隊員が活動してきました。

令和5年度から寄居町の地域おこし協力隊として活動してきた2人が、今年度末で任期を終えます。アートを生かしたまちづくり、移住・創業支援——。それぞれの立場から地域と向き合い、町の未来を考え続けてきた3年間。これまでの歩みと、これからへの思いを伺いました。

「アートを通じて、どのようなまちづくりを目指していましたか。」

「アートを町の付加価値に
—アートを通じたまちづくり—」



演劇ワークショップのポスター

「特に手応えを感じた取り組みはありますか。」

昨年8月に開催した演劇のワークショップです。外部のプロ講師を招き、寄居町の民話を題材に演劇の手法を学ぶ内容で、町内外から参加者が集まりました。寄居町を「知識」と「体験」の両面から感じてもらえる機会になったと考えています。

「町民の皆さんへメッセージをお願いします。」

3年間ありがとうございました。たくさんのお出合いや新しい経験に恵まれ、とても充実した協力隊生活を送ることができました。この3年間で得た経験を生かしながら、これからも少しずつ成長していけたらと思います。今後とも、温かく見守っていただけたら幸いです。

「今後の活動について教えてください。」

「これからの町との関わり
—今後の活動—
町民の方へのメッセージ—」

「着任当初と比べて、寄居町の印象に変化はありましたか。」

いい意味で大きな印象の変化はありません。活動を通して、山や川など自然が身近にあることや、人との距離感がちょうど良いことが、寄居町の魅力だと、より強く感じるようになりました。

寄居町の魅力は余裕と余白

創作活動を行うには、時間や心のゆとりが欠かせません。予定に追われる日々の中では、新しい表現を生み出すことは難しいと感じてきました。寄居町には、山や川などの自然が身近にあり、思い立ったときに気軽に足を運べる環境があります。また、人との距離感もちょうど良く、干渉しすぎず、孤立することもない関係性が、日々の暮らしに心のゆとりをもたらしています。寄居町には、そんな暮らしの中に自然と生まれる「心のゆとり」があります。スローライフという言葉だけでは表しきれない、自分と向き合い、創作に向き合うための余裕と余白がある町だと思えます。



「地域おこし協力隊に着任したきっかけを教えてください。」

書道家として参加した小川町でのワークショップを通じて「地域おこし協力隊」という制度を知ったことがきっかけです。当時は都内での暮らしに少し疲れを感じ、家族で地方移住を考えていた時期でもありました。寄居町を訪れた際、整った中心市街地と、のどかで暮らしやすい空気感に惹かれたことを覚えていますが、もともと寄居町を詳しく知っていたわけではなく、協力隊になることも最初から想定していたわけではありませんでしたが、その時のタイミングや生き方として、この町が自分にとって「ちょうどいい」と感じられたことが、寄居町を選んだ理由です。個人で動くことや、ゼロから何かを生み出すことに抵抗がなかったこともあり、不思議と「この町で生きていく」という感覚で走り出していました。

「3年間、どのような活動に取り組んできましたか。」

書道家・アーティストとしての特性を生かし、ワークショップを中心に、表現活動を通じて地域との関わりを続けてきました。将来的な書道教室の開設を見据えながら、アートを通じた町の魅力向上や集客促進を特に意識していました。



日本の里での書道パフォーマンス

地域おこし協力隊

3年間のあゆみ

魅力向上・集客促進活動担当
内川雄生さん



「地域おこし協力隊」は、都市部から地方へ移住し、地域に根ざした活動を通じて、まちの活性化を担う制度です。寄居町では、町の魅力発信や移住・創業支援など、それぞれの分野で協力隊員が活動してきました。

令和5年度から寄居町の地域おこし協力隊として活動してきた2人が、今年度末で任期を終えます。アートを生かしたまちづくり、移住・創業支援——。それぞれの立場から地域と向き合い、町の未来を考え続けてきた3年間。これまでの歩みと、これからへの思いを伺いました。